

芸術科（書道）学習指導案

府立〇〇高等学校 〇〇 〇〇

1 日 時 平成 27 年〇月〇日（〇） 3 限

2 場 所 府立〇〇高等学校 書道教室

3 対 象 学 年 第 2 学年 書道Ⅱ（自由選択） 20 名

4 単 元 名 漢字仮名交じりの書「カレンダーの制作」（10 時間）

5 教 科 書 使用せず

6 単 元 目 標

- （1）自己の感興や意図に基づき、様々な表現を試みることに意欲的に取り組もうとする。
(書への関心・意欲・態度)
- （2）言葉を効果的に表現する用具・用材の使い方を考え書風や線質、全体の構成を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- （3）言葉と用紙、書風の関係を理解し、主体的に個性的・創造的な表現の技能を身に付け表す。
(創造的な書表現の技能)
- （4）用具・用材の使い方や構成の工夫などにより様々な表現が可能であることを理解し、書のよさや美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

7 教 材 観

カレンダーは一年を通して目にする機会のある身近な題材である。そのカレンダーに様々な表現の工夫をしながら文字を書くことで書道と日常生活との関わりを考えさせることができると考える。また、使用する用紙においても染色方法において様々な工夫ができるため、言葉や用筆と用紙の関係を考えながら表現することに適した教材である。さらに、日本の四季やそれぞれの月に合った言葉を改めて考えるきっかけとなる題材であると考え。

8 生 徒 観

「略」

9 指 導 観

自らの意図を表現できるような言葉選び、用紙や書表現の工夫をさせていきたい。言葉調べや用紙の制作、表現の工夫等の活動を通して、主体的に個性的・創造的な表現をする姿勢を身に付けさせたい。また、与えられたテーマに合う言葉の選択や作品全体の構成を考える能力も身に付けさせたい。

10 単元の評価規準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単元の評価規準	〔表現〕 自己の感興や意図に基づき、様々な表現を試みることに意欲的に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕 作者の感興や意図に即した表現方法に関心を持ち、積極的に創造的な鑑賞活動に取り組もうとしている。	言葉を効果的に表現する用具・用材の使い方を考え書風や線質、全体の構成を工夫している。	言葉と用紙、書風の関係を理解し、主体的に個性的・創造的な表現の技能を身に付け表している。	用具・用材の使い方や構成の工夫になどにより様々な表現が可能であることを理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
学習活動に即した評価規準	〔表現・関①〕 自己の感興や意図を実現するための表現方法に関心を持ち、主体的に表現技法を高めようとしている。 〔鑑賞・関②〕 表現の多様性に関心を持ち、積極的に創造的な鑑賞活動に取り組み個性を認め合おうとしている。	〔構①〕 様々な紙染めの技法を学び、言葉と用紙の調和のとれた表現を工夫している。 〔構②〕 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。	〔技①〕 言葉と用紙、書風の関係を理解し、文字の墨量や線質、字形等を変化させ、全体の構成を考えた創造的な表現の技能を身につけ表している。	〔鑑①〕 用具・用材の使い方や構成の工夫になどにより様々な表現が可能であることを理解し、主体的に他者の作品を鑑賞して、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

11 指導と評価の計画（全 10 時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
1	カレンダーの制作過程を知るとともに、自らの気持ちを表す言葉を考える。	制作過程の概要を理解する。 1, 2月、3, 4月、5, 6月、7, 8月、9, 10月、11, 12月の計6つのブロックに分けられた月からイメージできる言葉（15～25字程度・漢字仮名交じり文）を調べる。{うちふた月までは漢字のみ（2字以上）仮名のみ（和歌・俳句等）でも可}	関①				自己の感興や意図を実現するための表現方法に関心を持ち、主体的に表現技法を高めようとしている。 （観察） （プリント）

2・3・4	様々な紙染めの技法を身に付け、自らの意図に基づいた表現をする。	紙染めの技法を学び、自らの意図に基づき清書用紙を制作する。		構①			様々な紙染めの技法を学び、言葉と用紙の調和のとれた表現を工夫している。 (作品)
5・6 (本時) ・7	自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質の表現方法、全体の構成の工夫などを理解する。	字形の工夫について理解する。 線の太細、墨量、運筆のスピードの変化による表現の工夫を理解する。 他者の作品を鑑賞し、表現の多様性について理解し、書のよさを味わう。	関①	構②		鑑①	自己の感興や意図を実現するための表現方法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 (観察) 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。 (観察) (作品) 評価の場面 I 用具・用材の使い方や構成の工夫などににより様々な表現が可能であることを理解し、主体的に他者の作品を鑑賞して、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 (観察)
8	自らの意図に基づいて構想し、技能を身に付け表現する。	制作した用紙を参考に配置を構想しながら漢字仮名交じり文を書く。 自己の意図に即し、字形や線の太細、墨量、運筆のスピードの変化などの表現を工夫する。	関②	構②	技①		表現の多様性に関心を持ち、積極的に創造的な鑑賞活動に取り組み個性を認め合おうとしている。 (観察) 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。 (観察) (作品) 言葉と用紙、書風の間を関係し、文字の墨量や線質、字形等を変化させ、全体の構成を考えた創造的な表現の技能を身につけて表している。 (作品)

9 ・ 10	生徒一人ひとりが自らの意図に基づいて構想し、技能を身に付け、表現する。	自らの構想に基づいて、文字と用紙、全体の構成を工夫しながら清書する。 清書作品6枚（各月ブロック毎に1枚）に押印する。		構②	技①		自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。 （観察）（作品）
							言葉と用紙、書風の間を関係し、文字の墨量や線質、字形等を変化させ、全体の構成を考えた創造的な表現の技能を身に付け表している。 （作品） 評価の場面Ⅱ

12 観点別評価の進め方 評価の場面Ⅰ について

学習活動に即した評価規準		評価基準	具体的な事項 (評価の総括につながる事項)
作品 全体 の 表現	【書表現の構想と工夫】 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。	A 自己の感興や意図に基づき、字形や線の太細、墨量、運筆のスピード等に変化をつけ表現の工夫をしたり全体の構成を工夫したりしている。 B 自己の感興や意図に基づき、字形を変化させ表現の工夫をしている。 C 自己の感興や意図に基づき、字形を変化させる等の表現の工夫ができていない。	- 点画の方向や長さに変化をつけるなどし、字形を変化させる工夫をしているか。 - 線の太細に変化をつける工夫をしているか。 - 墨量に変化をつける工夫をしているか。 - 運筆のスピードに変化をつける工夫をしているか。 - 自己の感興や意図に基づき表現や全体の構成を工夫しているか。 - 誤字、脱字がないか。

13 本時の展開（6時）

（1）本時の目標

- 与えられたテーマの中で、自己の感興や意図を表現することに積極的に取り組む。
- 線の太細、墨量、運筆のスピードの変化による表現の工夫や全体の構成の工夫をする。
- 他者の作品と自分の作品とを見比べ、表現の多様性について理解し、自らの表現の幅を広げる。

（2）本時の評価規準

- 関① 自己の感興や意図を実現するための表現方法に関心を持ち、主体的に表現技法を高めようとしている。
- 構② 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。
- 鑑① 用具・用材の用い方や構成の工夫になどにより様々な表現が可能であることを理解し、主体的に他者の作品を鑑賞して、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

（3）本時で扱う教材

- プリント

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (五分)	・ 本時の内容を知る。	・ 出欠確認 ・ 本時では線の太細、墨量、運筆のスピードの変化による表現の工夫を練習することを説明する。	
展開 (三十五分)	・ 自分が調べた言葉を与えられたテーマに合うように表現する。 ①大きく太く ②小さく細く ③一点一画、一字の中で線の太細に変化をつけて ④字間をつめて ⑤行の中心をそろえずに（各7分） ・ 1枚書くごとに手を止め、スクリーンに提示される他者の作品と自分の作品を見比べ、さらに表現を工夫する。	・ 以下の5つのテーマを1つずつ順番に提示し、テーマに沿って各自が調べた言葉を書写させる。 その際、漢字は常に仮名よりも大きく書くよう指示する。 （一や日など画数の少ないものは例外） ①大きく太く — 半紙を真っ黒にするつもりで ②小さく細く — ポツポツとしたイメージ ③一点一画、一字の中で線の太細に変化をつけて — 文字の大きさはあまり気にせず ④字間をつめて — 行間はつめないように ⑤行の中心をそろえずに — 行をガタガタさせる ・ ①～⑤それぞれにおいて、全員が1枚書けたら最もテーマに沿って書けている作品をスクリーンで提示する。その作品を鑑賞し、よりテーマに合うように工夫してもう1枚書写するよう指示する。	【書への関心・意欲・態度】 ・ 自己の感興や意図を実現するための表現方法に関心を持ち、主体的に表現技法を高めようとしている。（観察） 【書表現の構想と工夫】 ・ 自己の感興や意図を表現するのにふさわしい書風や線質、全体の構成を考え、工夫している。（観察）（作品） 【鑑賞の能力】 ・ 用具・用材の使い方や構成の工夫などににより様々な表現が可能であることを理解し、主体的に他者の作品を鑑賞して、書のよさや美しさを創造的に味わっている。（観察）
まとめ (十分)	・ 本時の課題を提出する。 ・ 後片付け ・ 次時の予告を聞く。	・ ①～⑤の作品をそれぞれ1枚ずつファイルに綴じるよう指示する。 ・ 書道用具を片付けさせる。 ・ 次回予告をする。	